

(貸 金)

### 請求の趣旨【前記記載のとおり】

1 被告【ら】は、原告 \_\_\_\_\_ に対し、【連帯して】次の金額を支払え。

(1) 金 \_\_\_\_\_ 円

(2) (1)の金額【のうち金 \_\_\_\_\_ 円】に対する【 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
本訴状送達の日翌日】から【支払済み  \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日】まで年  
\_\_\_\_\_ パーセントの割合による金員

(3) (1)の金額【のうち金 \_\_\_\_\_ 円】に対する \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日から  
支払済みまで年 \_\_\_\_\_ パーセントの割合による金員

2 訴訟費用は被告【ら】の負担とする。

との判決【及び仮執行宣言】を求める。

### 請求の原因（紛争の要点）

1 原告 \_\_\_\_\_ は、被告 \_\_\_\_\_ に対し、以下の条件で金銭を貸し渡した。

(1)貸付日【 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 別紙貸付日欄記載のとおり】

(2)貸付金額【 \_\_\_\_\_ 円 別紙貸付日の取引金額欄記載のとおり】

(3)利息の約定【無 年 \_\_\_\_\_ パーセント】（ただし、利息制限法の制限  
利率により請求する）

(4)損害金の約定【無 年 \_\_\_\_\_ パーセント】（ただし、利息制限法の制  
限利率により請求する）

(5)弁済期【 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日【から \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日まで毎月 \_\_\_\_\_ 日限り \_\_\_\_\_ 円ずつ】  
の定め【無（催告日… \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 本訴状の送達による）

【 (6)特約条項 期限の利益喪失の定め（支払を \_\_\_\_\_ 怠ったとき）】

【 (7)連帯保証人 被告 \_\_\_\_\_ （ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日付け保証を証する書面あり）】

2 被告【ら】が原告 \_\_\_\_\_ に対し返済した金額は、【ない  \_\_\_\_\_ 円である】。  
【なお、【最終支払日 期限の利益喪失日】は、 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日である。】

3 よって、原告 \_\_\_\_\_ は、被告【ら】に対し、【連帯して】 \_\_\_\_\_ 円  
（内訳：元金 \_\_\_\_\_ 円、利息 \_\_\_\_\_ 円、確定損害金 \_\_\_\_\_ 円）

【及び残元金に対する【利息、】遅延損害金】の支払を求める。